

編集長としての4年間を振り返って

Reflecting on My Four Years as Editor-in-chief

松田 亮三

筆者が編集長を務める『立命館人間科学研究』は本号が最後となり、次号より松原洋子教授（先端総合学術研究科）が新編集長として編纂を行われます。退任にあたり、編集を担当した4年間について簡単に振り返っておきます。

まず、学術誌の発行をめぐる状況がこの4年間でずいぶんと変化しました。社会における学術のあり方が厳しく問われるようになる中で、学術成果を公表する学術誌のあり方、その出版倫理遵守への取り組みも問われています（Committee on Publication Ethics, 2011a, 2011b; John Wiley & Sons, Ltd. 2014）。いうまでもなく学術誌の役割は学術の成果を学術コミュニティに、そして社会に対して公表することにあります。公表される成果が学術的にみて適正なものかどうか、出版に関わる一般的なルールを遵守し倫理的に妥当かどうか、それらを確認するためにどのように学術誌が取り組んでいるか、といった点が、学術コミュニティの課題としてだけでなく社会の課題として検討された4年間でした。

振り返りますと、このような中で『立命館人間科学研究』の編集は2つの変化を経験してきたと思います。一つには、査読等掲載論文の審査過程ならびに論文評価基準の明確化による編集過程の透明性の向上です。学際的な研究所が発行している学術誌に投稿される多様な学術成果をどのように審査するかは悩ましい問題ですが、1年の議論を経て編集・投稿・審査に関わる規程を改訂し、新たに執筆要領、論文査読ガイドラインを定めました。2014年2月発行の第29号から実施した新規規程による編集はおおむね順調に推移しており、投稿者のみなさま、論文査読という労力のいる作業にご協力いただいている所内・外の査読者のみなさま、煩雑な作業を行っていただいている研究所事務局に改めて感謝を申し上げます。

なお、このような透明性のある編集を支えるために、またさらに論文の質を高めていくように編集体制の強化を行いました。幅広い学術領域からの投稿に対応できる査読体制とするべく、従来運営委員のみで実施していた所内の査読者を研究所の活動に参加している研究者の方をお願いしております。このため、2人の副編集委員長にご協力いただき、より妥当な査読者選定を行うようにいたしました。この間副編集委員長を務めていただいた土田宣明先生（文学部、2012-2014年度）、井上彰先生（先端総合学術研究科、2013-2014年度）には、これに限らず多くの重要事項の相談にのっていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、二つ目の変化は匿名の査読を受けた論文だけでなく、多様な学術情報を公表する媒体としての学術誌という方向です。この一つが、匿名査読者による査読を実施せずに、編集長が必要な場合には他の編集委員の助言を得て審査を行い掲載する区分として「実践と論考」を設けたことです。研究

所が自ら発行している学術誌として、査読論文だけでなく多様な学術に関わる情報を迅速に公表することにつながることを期待して設けられたこの区分で、すでに5つの論文が掲載されています。

社会への公表という点での変化には、立命館大学機関リポジトリへの取載、ソーシャル・ネットワークの活用が上げられます。前者を通して、国内外の学術論文データベースとの連携がより円滑に行われるようになっております。後者は人間科学研究所全体の取り組みで、現状は本誌の発行を知らせるという程度の活用にとどまっておりますが、今後新たな展開も期待できると思われれます。本誌はいち早くオンラインでのオープン・アクセスに取り組んでまいりましたが、その仕組みが社会的に整備される中で、その一部に参加する対応を行ったといえます。

最後に、編集実務を支えてくださった研究所事務局、特に片山詩朗氏、難波しのぶ氏に心からお礼を申し上げます。お2人は通常の編集業務はもちろんのこと、各種規程の改定においても非常に大きな貢献をしていただきました。ありがとうございました。学術誌発行をめぐる状況はますます厳しくなっておりますが、松原新編集長のリードにより本誌がさらに発展していくことを願っております。

文献

Committee on Publication Ethics (2011a) Code of conduct and best practice guidelines for journal editors, (2015年6月5日取得 http://publicationethics.org/files/Code_of_conduct_for_journal_editors_Mar11.pdf).

Committee on Publication Ethics (2011b) Code of conduct for journal publishers, (2015年6月5日取得 http://publicationethics.org/files/Code%20of%20conduct%20for%20publishers%20FINAL_1_0.pdf).

John Wiley & Sons, Ltd. (2014) 出版倫理の最良実践ガイドライン, 第二版, (2015年6月5日取得 http://www.wiley.co.jp/blog/pse/wp-content/uploads/2014/09/Wiley_Pub_Ethics_Guidelines_2e_JPN.pdf).